

平成 30 年度

# 学生によるオレンジリボン運動

## 愛知県立大学 実施報告書



実施主体 愛知県立大学村田ゼミ

実施内容 学内における児童虐待防止の啓発活動

### ①事前に取り組んだ内容

①授業やゼミ活動の中で児童虐待のについて学び、事例検討等を通して対応や対策についての理解を深めた。②児童虐待防止全国ネットワーク事務局への訪問をし、オレンジリボン運動の起源や取り組みについて学んだ。③児童養護施設、児童自立支援施設への訪問を通し、虐待が子どもの心身に与える影響について学んだ。④オレンジリボンを用いたしおりとポスターを作成した。⑤学内学習会に向けて虐待による死亡事例について調べ、ゼミで意見交換を行った。⑥児童虐待認知度調査の内容の検討および掲示物の準備を行った。

### ②実施期間に取り組んだ具体的内容

- ・社会福祉学科の一年生を対象とした学内学習会を実施し、児童虐待及びオレンジリボン運動の啓発と虐待による死亡事例の検討を行い、児童虐待防止活動に対する関心が高まるように働きかけた。また、学内学習会での事例検討の内容を振り返り、児童虐待防止への学生の意識について理解を深めた。
- ・オレンジリボン運動啓発ポスターを作成し、学内数か所に掲示を行った。
- ・オレンジリボンをモチーフにしたしおりを作成し、学内で配布した。
- ・「児童虐待認知度調査」を実施し、結果の集計と考察を行った。
- ・在学生に未来の子どもたちに対するメッセージを書いてもらい、子どもたちの未来を守る大人になるという意識づけにつなげた。

### ③オレンジリボン運動を終えて…

#### ＜児童虐待認知度調査＞

オレンジリボンの意味を知っている割合について、教育福祉学部の認知度は他学部と比べ高かった。例えば、外国語学部とでは約 5.7 倍の差が見られた。この結果から、オレンジリボン運動は社会福祉を学んでいる者にとっては認知度は高いといえるが、他学部の者にとってはいま



だ認知度が低いことを改めて実感する機会になった。また、虐待通告に関する調査では、yes/no の選択肢しかないにも関わらず、どちらと判断できない部分への回答が多くみられ、通告することへのためらいが生じることがわかった。

### <学内学習会>

何を虐待と捉えるかは、自分の育ちとも関連しており、不適切な関わりがあったとしても、通告をしない選択をする可能性があることがわかった。また、近隣との関係の悪化への懸念など、地域とのつながりなかに通告をためらう要因があることもわかった。

### <未来の子どもたちへのメッセージ>

未来の子どもたちに向けてメッセージを書くことで、親準備世代であるという意識を高めるとともに、子どもや子育てへの関心を深めることにつながったと思われる。また、記入されたメッセージを掲示したことによって、記入者だけでなく学内全体にフィードバックすることができ、今後の活動への関心につなげることができたと思われる。

### <次年度に向けて>

今年度は社会福祉を学ぶ学生への働きかけが中心であった。来年度は、活動を学内全体に広げ、本学における児童虐待防止活動への関心と参加への雰囲気づくりにつなげたいと思う。

